

歩 街 田原

街あるつく田原

第33号

- 歴史再発見「池ノ原公園」
- 偉人の功績を身近に「渡辺崋山」
- 旬屋はなみち

平成28年2月15日 月

発行元 / 株式会社あつまるタウン田原

所在地 / 愛知県田原市田原町萱町1

TEL / 0531-24-2345 URL / <http://www.tahara-tmo.com/>



歴史を感じる公園で思い思いの時間を： 歴史再発見「池ノ原公園・渡辺崋山」

池ノ原公園は市役所の北側に位置し、田原市の歴史に関わりの深い場所として有名です。公園の北側には渥美半島のシンボル蔵王山が眺められ、近隣には、田原市博物館や田原城址、田原市立田原中部小学校、田原市立田原中学校と愛知県立成章高等学校、田原福祉専門学校があり、幕末の蘭学者・画家でもある渡辺崋山ゆかりの地となっています。その渡辺崋山が無実の罪によつて蟄居を命じられ、生涯最後の数年間を過ごし切腹自刃して果てた場所。一角にある渡辺崋山幽居跡などの木造建物や、銅像、生涯を綴った石碑が公園内にあり、ゆっくり歩きながら当時の情景を振り返ることができます。

また、敷地内中央に位置する田原市池ノ原会館「全楽庵」では、立礼席が設けられ、一服（300円・お菓子付）を気軽に利用することができ、館内は茶道・華道・俳句などの文化活動や会議、高校の部活動、地域の集会などに利用されています。また、公園の北側にある「椿のみち」を抜けた先には、和洋様々な種類の椿が植えられているつばき公園が有名で、約500本が春先まで品種を変え楽しめます。時期になると

市内からはウオーキングのひとつの名所として、また市外からも多くの見物客が、この花を楽しむために訪れます。

▼利用案内

【池ノ原公園】

◎利用時間／終日利用可能

【池ノ原会館・全楽庵】

◎営業時間／午前9時～午後10時（夜間利用の無い場合は午後5時まで・立礼席は午前10時～午後4時）駐車場、トイレ、車椅子トイレ有

◎定休日／毎週月曜日（祝日の場合はその翌日）、年末年始（12月28日～1月4日）

◎使用料金／

茶室・茶事のみ	1時間 300円
和室1（10畳）	1時間 300円
和室2（10畳）	1時間 300円
立礼席一服	300円（お菓子付き）

●「池ノ原会館 全楽庵」について詳しくは下記QRコードでガイドブックをご覧ください。



華山の思いを感じつつ、歴史の重みを実感

渡辺華山幽居跡



町定文化財 平成4年6月25日

ここは、渡辺華山の推挙により、田原藩に招聘され、天保5年（1834）から6年間、農政殖産の指導をした大蔵永常の屋敷跡で、その頃は「御産物屋敷」と呼ばれていました。

天保11年（1840）2月16日に渡辺華山はこの邸に入って牢中の疲労を養い、家族と共に乏しい蟄居生活を送りました。ところが、弟子福田半香の師を救う画会に画を執筆した事などから、「幽囚中の身をかえりみず、江戸の知己と交わること、藩公が未だに奏者番米進の果たせないのは重臣華山の罪科が災いしているからだ。」等の不穏な噂を聞き、忠孝に徹した渡辺華山は深く自省し、天保12年（1841）10月11日、脇差で切腹自刃しました。

⑤玉碎の碑⑥不忠不孝の碑

⑦幽囚之家の石標

⑧渡辺華山銅像

椿や楓に囲まれた石段から見る正面の台地に「華山先生玉碎之跡」とある記念碑は、明治42年（1909）に建てられました。東郷平八郎元帥の筆です。「不忠不孝渡辺登」の碑は、渡辺華山の遺書をそのまま刻んだものです。建物は、幽居邸の復元で、石標の文字「華山先生幽囚之家」は松林桂月画伯の筆、自刀の跡と言われる庭の北には彫塑家小田寛一の作になる渡辺華山の銅像があります。これらは昭和30年（1955）全国の篤志の浄財をもって復元されたものです。



⑤玉碎の碑(左)・⑥不忠不孝の碑(右)



⑦幽囚之家の石標



⑧渡辺華山銅像

ちょっと足を伸ばして「色とりどりの季節の花」を散策！

つばき並木～つばき公園を散策

この周辺は、江戸時代以降に家の囲いとして椿が植えられ、その美しい光景を童話作家である石森延男先生の著者「日本とくところ」で『椿咲く小道』として紹介され、その中に「小路はおちた花でいっぱいになり歩くのがおもしろい」と表現されています。



立礼席でゆっくりした時間を…

池ノ原会館「全楽庵」



渡辺華山ゆかりの地、池ノ原公園の一角にある木造瓦葺平屋建ての落ち着いた建物。四季折々の表情のある和風庭園をみながらお茶を愉しむのもお勧めです。



偉人の功績を身近に「渡辺華山」

市役所の北側にある「池ノ原公園」。茶室のある公園として慣れ親しまれています。そんな池ノ原公園と言って忘れてはいけないのが「渡辺華山」。田原の偉人の一人としてその功績から、現在も人々から愛されています。そんな華山の数奇な運命の最期の場所となったこの地。歴史を振り返りつつ散策してみてはいかがでしょうか。

【次号の特集記事のお知らせ】

街歩きマップでご紹介したあの場合、この場所をゆかりの人と合わせて総集編でもう一度ご紹介します。お楽しみに。

渡辺華山を知ろう その③

③報民倉

天保3年（1832）家老になり、紀州藩船流木掠め取り事件解決・助郷免除・新田開発による沿岸民の不安解消などに活躍。天保6～8年頃は全国的な大飢饉の年、田原藩では華山の発案で6年に穀物を蓄える義倉「報民倉」を築き、この飢饉を一人の餓死流亡者も出さず乗り切りました。功績が認められ、9年には全国で唯一幕府から表彰されました。



渡辺華山を知ろう その①

①生誕

渡辺華山は、寛政5年（1793）9月16日、江戸麹町の田原藩上屋敷で、父定道29歳、母栄22歳の長男として生まれました。田原藩は一万二千石の小藩で、さらに渡辺家は貧乏のうえ、病身の父・老祖母・8人の子供を抱えていました。華山は苦しい家計を助けるために、仕事や学問をしながら、絵の修行に励みました。



石碑を読みながら公園を散策、華山最期の場所「華山幽居」

渡辺華山を知ろう その④

④蛭社の獄

華山は、鎖国の日本が世界水準から遅れていることを憂えた一人。高野長英や小関三英らと蘭学を研究。天保10年（1839）、快く思わない幕府は、蘭学研究者らを捕らえました。これを蛭社の獄といいます。華山の未発表の「慎機論」が幕政批判にあたるという罪で、在所蟄居を命じられ、この池ノ原の屋敷に住むことになりました。



渡辺華山を知ろう その②

②立志

華山12歳の時、日本橋のそばで大名行列の先頭にぶつかり、侍たちに打たれ、殴られました。行列は備前岡山藩三十五万石のもので、行列の籠の中には、華山と同じ年頃の若者が見えました。華山はその時、生まれながらの身分の違いの不平等を思いました。将来、誰もが平等に評価される学問の世界で実を立てると決心しました。



旬屋はなみち 長谷川和也さん

●プロフィール

1988年生まれ。県内の大学の経営学部を卒業後、居酒屋や焼き肉店などで修行。修行先の店長から独立を勧められて居酒屋を開店しました。



住 田原市田原町東大浜 96
☎ 080-4626-2638
営 17:00-24:00
休 不定休
駐 3台



▲ 焼肉屋や居酒屋で培った飲食業のノウハウを活かしてお店を切り盛りする、長谷川和也さん

居酒屋開店の志

昨平成27年3月3日に開店した『旬屋はなみち』の長谷川和也さんをご紹介します。和也さんは昭和63年8月生まれの現在27歳です。田原町で生まれ育ち、県内の大学の経営学部を卒業後、居酒屋や焼肉店で修行し焼肉店店長の勧めもあり独立を決意しました。

店舗は地元の知人や家族とも相談し古民家風な空き店舗で以前は有名な寿司店跡を改装して使用することにしました。居酒屋を開店したのは、とにかく自分がお酒好きで美味しいお酒とそれにあつた食材をお客様に提供したいという思いからだそうです。

酒のこだわり

特に日本酒、焼酎はなかなか手に入らないものを取り揃え種類も多くリーズナブルな価格で提供しています。また、ワインセラーを常備し、和のテイストだけでなく、いつでも美味しいワインを飲んで頂けるよう心掛けています。

食のこだわり

焼肉店で修行したおかげで肉にもこだわりがあり、鶏肉は錦鶏（きんせう）どりや三河赤鶏、豚肉は秀麗豚（しゅうれい）を使用しています。

魚も地元伊良湖産はもちろん、静岡県の福田や御前崎産の魚を仕入れるため、毎日のように豊橋まで買い出しに行っています。

おすすめメニュー

メニューは週替わりで変化をもたせ、お客様が飽きないように日々研究してお手頃価格で質の良い料理を提供しています。

おすすめは、日替り新鮮なお刺身や種類豊富な海鮮料理と、厚切牛タン塩や和牛もつ鍋、名物とりキムチ等の肉料理です。

これからの取組み

いままでは、和食中心でしたが、ピザ、パスタ等洋風メニューにもチャレンジしていきたいと考えています。また、他店と協同して、会費制のワイン会や日本酒試飲会等も手掛けていきます。外観は古民家風感じですが、親しみやすく居心地の良いお店を目指し頑張っていますので是非ご来店ください。お待ちしております。

地域との関わり

田原祭りには幼少期から参加しており、最近では田原市商工会青年部にも入会して中心市街地が賑わうよう街づくりにも積極的に参加していきたいと思っています。

【次回のお知らせ】

次回は、長谷川和也さんからバトンを受けた「ラーメン宝塔 田原店」の岡田誠さんをご紹介します。お楽しみに♪



※都合により、ご紹介する方を「長谷川和也さん」に変更させていただきます。ご了承ください。